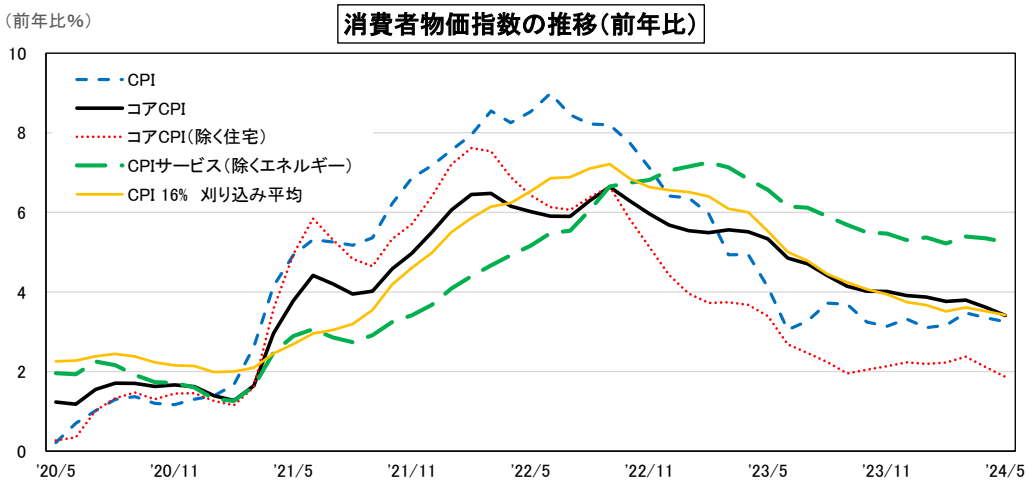
リサーチ＆ソリューション第１部　佐古 佳史

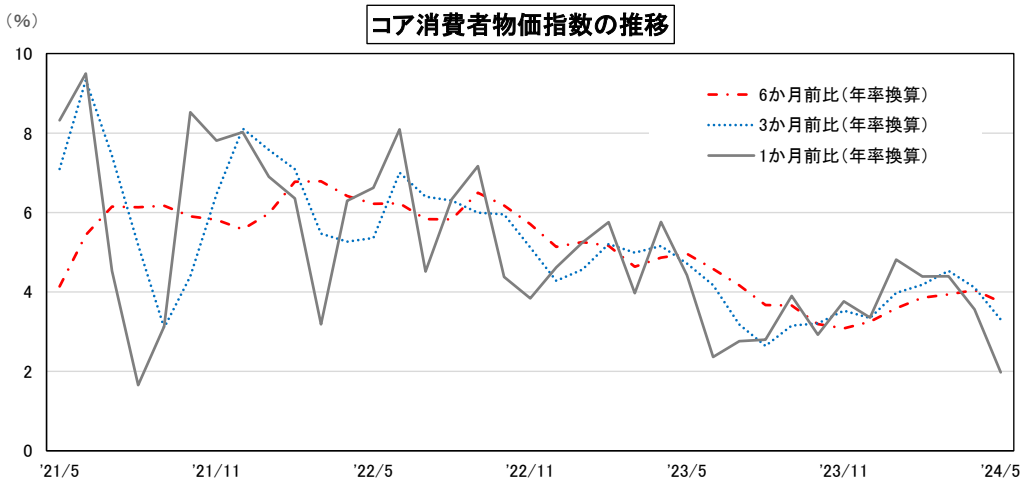
（米国）鈍化が確認された５月の物価指数

５ 月の消費者物価指数（CPI）は、総合が前年比 3.3%（前月比は 0.0%）、食料とエネルギーを除くコアは同 3.4%（同 0.2%）となり、インフレ指標の鈍化が確認された。エネルギーを除いたコアサービスの上昇率も前月比 0.2%へと鈍化した。内訳をみると住宅費は同 0.4%、輸送サービスは同▲0.5%、医療サービスは同 0.3%となった。全体としては、5 月 CPI からはインフレ率の鈍化が確認された。



（資料）米労働省統計局、LSEG

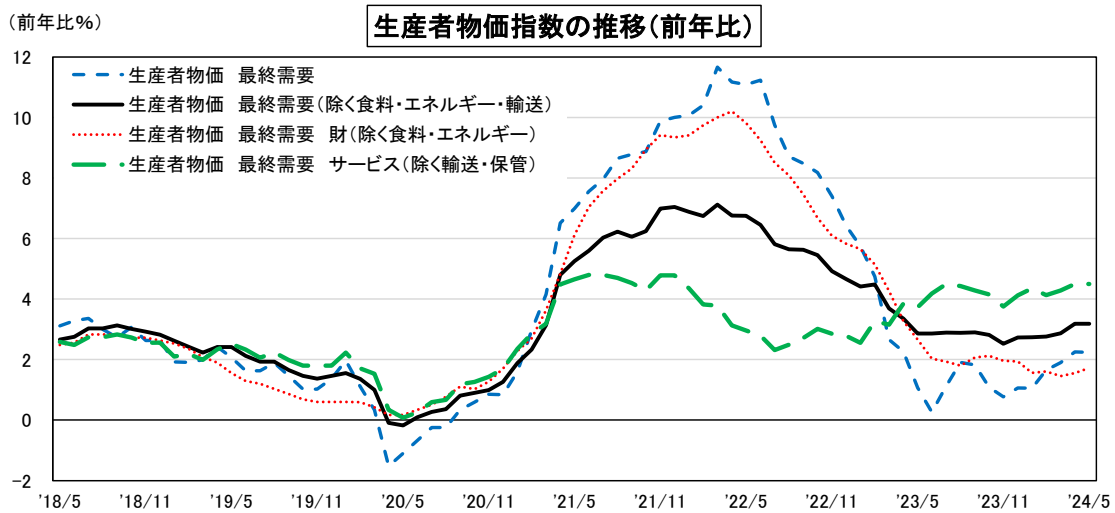
コア CPI についてより足元の動きを確認しやすい 1、3、6 か月前比（年率換算）を計算すると、5 月はそれぞれ 2.0%、3.3%、3.7%となり、インフレ率の抑制がみられた。



（資料）米労働省統計局、LSEG

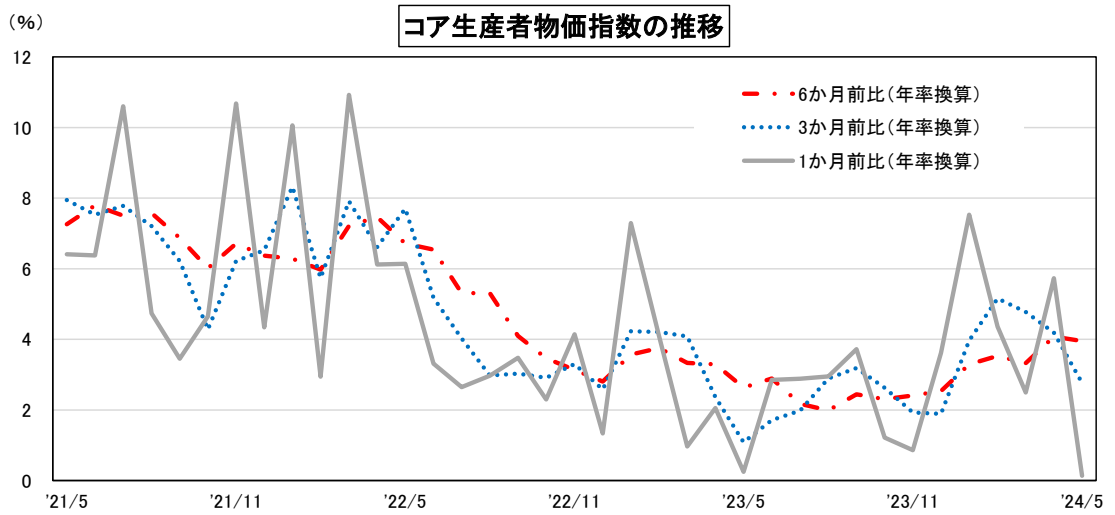
ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます　https://www.nochuri.co.jp/

5 月の生産者物価指数（PPI、最終需要区分）の動きを確認すると、総合は前年比 2.2%（前月比▲0.2%）、食料・エネルギー・輸送を除くコアは同 3.2%（同 0.0%）となった。内訳をみると、財（除く食料・エネルギー）については前年比 1.7%と同 10.2%とピークをつけた 22 年 4 月から鈍化傾向が続いている。一方のサービス（除く輸送・保管）については同 4.5%となり、あまり鈍化していない。



（資料）米労働省統計局、LSEG

最終需要から、食料・エネルギー・輸送を除いたコア PPI について、より足元の動きを確認しやすい 1、3、6 か月前比（年率換算）を計算すると、5 月はそれぞれ 0.1%、2.8%、4.0%となった。振れ幅は大きいものの、やはり 5 月はインフレ率の抑制がみられた。



（資料）米労働省統計局、LSEG

5 月のインフレ関連指標は、24 年初にみられたインフレ率の再加速が一段落したことが確認できる内容となった。5 月の雇用統計で賃金が再加速していたこともあり、5 月の CPI と PPI は、インフレ率の抑制をめざす FRB にとって安心材料となっただろう。こうした傾向が続くのかどうか引き続き注目したい。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます　https://www.nochuri.co.jp/